

理事長ごあいさつ



九州北部豪雨災害を始め今期の豪雨により被災された皆様には、謹んでお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

2015年の9月にニューヨークにある国連本部において、150ヶ国超の各国首脳の出席のもと、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ (Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development)」が採択されました。

このアジェンダは、向こう15年間の人間と地球、そしてその繁栄のための行動計画として宣言及び目標を掲げたものであり、この目標（17の目標と169のターゲットから構成される。）が、いわゆる「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」と呼ばれているものであります。

そして、その前文の「地球」という項目には、「我々は、地球が現在及び将来の世代の需要を支えることができるように、持続可能な消費及び生産、天然資源の持続可能な管理並びに気候変動に関する緊急の行動をとることを含めて、地球を破壊から守ることを決意する」とあり、また、SDGsの14番目の目標には「海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する」と掲げられております。

当機構は、海洋・地球・生命の統合的理解を目指し、その成果に基づき、地球規模での課題解決のため、また、我が国の安全・安心を確保するため、そして、人間の生き方そのものを変えるために活動を行うことを使命としておりますが、まさしくこのSDGsに掲げられた思想は当機構の今後の針路を指し示すものの一つであり、本年7月には「海洋SDGsシンポジウム」として、海洋ごみ問題に関連したシンポジウムを開催し、産学官の関係諸団体と議論を交わし意識を共有したところであります。

また、冒頭、豪雨災害のお悔やみを申し上げましたが、一昨年は関東・東北豪雨、昨年は岩手県と北海道において大規模水害が発生したことは記憶に新しく、近年は夏季になりますと、毎年我が国のどこかで必ず大規模な水害が発生しており、SDGsの目標からも読み取れるように、気候変動に起因する諸問題は我々人類の憂慮すべき喫緊の課題であります。

当機構はこれまでも地球温暖化対応への貢献を実施してきたところであり、今後についても「地球の破壊から守る」べく当機構の総力を結集して研究・開発の諸活動に引

き続き邁進し、併せて本報告書でご紹介させて頂いている草の根的な環境配慮活動にも注力しながら、地球温暖化問題等の世界規模の課題の解決に貢献し、私どもの使命を全うしてゆく所存であります。

さて、「安全・環境報告書」として安全の内容を盛り込んだ形での報告書の発行は3回目となりました。「安全は全てに優先する」という言葉のとおり、当機構においてもその理念のもと、労働災害の防止に取り組んでおります。

しかしながら、2016年度の事故・トラブルの発生件数は2015年度と比較して70%増となり、極めて残念な結果を招来するに至りました。

このことの分析につきましては、本報告書にてご報告させて頂いているとおりであります。作業手順の再確認など安全管理の基本的事項の欠落により発生した事象もあるため、今一度、安全管理の原点に戻り、事象の細部まで分析し、役職員に対する安全教育の充実や安全に関する情報の発信など、事故・トラブルの撲滅を達成すべくあらゆる活動に取り組んで参ります。

私どもの今中期計画の目標は「海洋・地球・生命の統合的理解を推進する」ことであり、その具体的課題は、海洋・地球・生命システムの統合的数理モデルを作り、複雑に相互作用するこのシステムの挙動を理解し、かつ、未来予測を可能にすることです。そのために、専門性をより深化させた先端的なフロンティアへの挑戦、技術開発による科学と技術の融合、そして未来を見つめた分野融合科学の創成を目指して行きたいと考えておりますが、それを実現させるためのマインドは、一昨年の報告書においても述べさせていただきましたが、「自由闊達にして愉快であり、かつ日本、そして世界から本当に必要とされる研究所、叡智と人類愛にあふれた豊かな文化創造の研究所の創生」であります。

我々はこのマインドを胸に抱き、安全・環境に代表されるCSR（企業の社会的責任：Corporate Social Responsibility）を果たすことは勿論、ステークホルダーの皆様が必要とされ、信頼され、また、愛される研究所を目指して更なる躍進を遂げて参りたいと思っておりますので、今後とも相変わらぬご厚情を賜りたく心よりお願い申し上げます。

平成29年9月

国立研究開発法人海洋研究開発機構

理事長 平 朝考